

# 3年 社会科 学習指導案 Ver. 2

3年松・蘭・菊・梅組（男子11人、女子22人）

授業者： 寺 本 誠

支援弁護士4名

1 単元名 第1章「個人と社会生活」  
小単元「わたしたちと社会生活～バイオリンが壊れちゃった！～」

2 本時のねらい

- ①法的思考力を活用して、紛争状況を解決するための、のぞましい紛争解決のあり方を考える。
- ②ロールプレイを通して法的な技能を用いながら調停者を交えた紛争解決の方法を学ぶ。

3-（1）学習の展開（授業1）

	主な学習内容と活動（○生徒の活動／●教師の指示・発問）	教師の支援、指導上の工夫・配慮
導入	<p>●教師より、授業趣旨説明 「友達同士の紛争（問題）が起きたとき、みんなならどうするか。」 ○自由に発言</p>	
5分	<p>●「もし、それでうまくいかなかったらどうするか」 ●「ルールに基づいてみんなが納得して解決できる方法を学ぶことも大事である。今日の学習を手伝ってくれる方々をお招きしている。この方たちはどんな人？」 ●弁護士の方々の紹介</p>	
展開	<p>●「バイオリンの事例についてどうやったらみんなが納得して解決できるか考えてみよう」 ○バイオリンの事例を読む。 ① ○読みながらワークシートに心情を書く。</p>	<p>□各自簡単にそれぞれ自己紹介。</p> <p>□プリント（事例）を配布。 □生活班で机を内側に向けさせる。 □係が決まらなかったら生活班の係分担で教師が決める。 □A・B・C・調停役の合計4グループにそれぞれ弁護士の方がつき、常にそのグループと一緒に動く。 □調停役グループは空き教室（社会科室）を使用。弁護士1名と教師移動。 □調停役の生徒に調停者シートを配布する。 □教室でA・B・Cグループ用ワークシートを配布する。</p>
17分	<p>●5人もしくは6人のグループに分かれるよう指示(6班の生活班単位で行う)。その中でA(1名)・B(1名)・C(1名)・調停役(2～3人)を決める。 ※各クラス33名なので、調停役合計15人、A(6人)、B(6人)、C(6人) ●A・B・Cに対し、役割ごとのグループに分かれて着席するよう指示。調停役は社会科室へ移動。 ●A・B・Cグループはそれぞれの言い分を弁護士の方々と一緒に理解・整理する。調停役は調停の方法や進め方を教わる。</p>	
展開	<p>&lt;1回目の聞き取り&gt; ○調停役が個別にA・B・Cから話を聞き取り、それぞれの言い分を聞く。（1回目、2回目とも3分ずつ） ※聞き取りの場は社会科室とする。最初にA・Bが移動（弁護士がそれぞれ引率）→Cは教室待機（弁護士による指導）。Aは社会科室へ入り、Bは廊下で椅子を出して着席して待つ（待っている間も弁護士がつく）。Aが終わったら、弁護士と一緒に教室に戻り、</p>	<p>□教師・弁護士は巡回して適宜指導・支援。時間は教師が合図する。 □調停役の記録用ワークシートを配布する。 □調停役は常に活動を行うが、他の役割の生徒は時間が空くので、時間を持って余さない工夫を行う必要がある。→A・B・Cがどこまでだったら折り合</p>
②	<p>2 4</p>	

分	<p>○調停役は一人が聞き取り、一人が記録を行う。</p> <p>○調停役は1回目の聞き取りが終わったら相談時間をとる(3分)。(弁護士からのアドバイスを含めて)</p> <p><b>&lt;2回目の聞き取り&gt;</b></p> <p>※1回目と同じことを繰り返す。</p> <p>○調停役生徒は最後まで言い分を聞いたら、二人(三人)で調停案を考える。(残り時間4分になったら弁護士・教師引率のもと、教室に戻る。席を戻して元の席に座りなおす)</p>	<p>いをつけられるか各立場で意見を合わせておく。←弁護士の支援</p> <p>□一人ずつ話している間、他の役割の生徒はグループ別に分かれて、弁護士とともに話し合いのポイントをまとめたり、調停役との話し合いを振り返ったりする。</p> <p>□弁護士1名が社会科室で調停を巡回指導。3名が教室にてA・B・Cグループにそれぞれ付いて支援。</p>
まとめ 4分	<p>●本時の学習の振り返り。次回の予告。</p>	<p>□調停案をまとめきれなかったら、次回までの宿題としておく。</p>

### 3-(2) 学習の展開 (授業2)

	主な学習内容と活動 (○生徒の活動/●教師の指示・発問)	教師の支援、指導上の工夫・配慮
導入 5分	<p>●教師より、前回の授業の振り返り。</p> <p>●弁護士より、前回の話し合いの評価及び今日の展開について説明。調停とはどのようなものか再確認。</p>	<p>□社会科室に最初集合し、授業を行うことを前日に指示(社会科室は広いので各グループの話し合いの声が届きにくい)。机は班ごとに合わせて並べて置く。</p> <p>□調停に対して最終的に合意できなくてもよいことにも留意させる。</p>
展開 ① 20分	<p>○四者相席での調停の場につく。調停役からまず前時の最後に話し合った調停案を提示。それにもとづいてA・B・C役の生徒がそれぞれの立場から意見を述べる。</p> <p>※前時に行った「どこまでなら折り合いをつけられるか、納得できるか」という点を想起しながら意見を述べる(A・B・Cは調停内容に納得したのか、あるいはしていないのか。していない場合はどの点に納得していないのか)。</p> <p>○それに基づいてグループで調停案をまとめて提示する。納得するという合意が得られない場合は、その理由をマグネットシートに書く←弁護士の方々が各グループを巡回しながら支援する。</p> <p>※後に書き方例あり。</p>	<p>□生徒全員に記入用ワークシートを配布。各グループにマグネットシートを用意。</p> <p>ワークシートには最初の調停案を記入する欄、A・B・Cの最終的な意見を書く欄、グループとしての最終案を書く欄、調停後の心情を書く欄、2日間の感想を書く欄を設定。</p>
展開 ② 15分	<p>●○どのような点を特に考慮して調停を行ったか、また、調停案に対して合意できていない部分はどこか。ポイントも含めてグループごとに発表を行う。(○生徒同士で質問・疑問を出し合う)</p>	<p>□マグネットシートを使って調停結果をまとめ、発表する。</p>

ま と め 1 0 分	<p>●弁護士より、各グループの調停案を受けて、法的な整理・解釈・コメントを行う。2日間の感想を述べる。</p> <p>●教師より2時間の授業の振り返り。ワークシート提出についての指示。</p>	<p>□ワークシートに感想を書いて提出。</p> <p>□時間が無い場合は感想を書いて次回の授業にて回収。</p>
----------------------------	---	---

○授業日・時間

		10月21日(木)	10月25日(月)
1時限	8:40~9:30	9:20 附属中校長室	蘭
2時限	9:40~10:30	3年梅組	松
3時限	10:40~11:30	蘭	菊
4時限	11:40~12:30	菊	梅
5時限	13:20~14:10	松	
6時限	14:20~15:10	簡単に次の時間の打ち合わせ	

○留意事項

- ・ 弁護士の方々は校長室を（第一校舎1階）を控室として使用する。
- ・ 使用教室は10月21日（木）一般教室（第一校舎3階）と社会科室（第一校舎2階）とする。10月25日（月）の授業は社会科室のみで行う。
- ・ 名前が分かるように弁護士の方には名札をつけてもらう。→中学校で用意。

調停案提示用マグネットシートの書き方イメージ

調停案・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・

---

A：合意

B：不合意

理由・・・・・・・・

C：不合意

理由・・・・・・・・

## バイオリンが壊れちゃった！

ある日の、放課後の出来事です。

文化祭のコンサートで演奏するためのグループ練習を、3階の音楽室で行う時間でした。

Aさんは、友達の子さん・Zさんと、3人のグループで演奏することになり、3人は、それぞれバイオリンを持って登校してきていました。初めは、どのグループも音楽室で練習していました。

今日は、3人の息がぴったりあって、演奏している3人は気分がよくなってきました。3人とも大満足でした。しかし、周囲の他のグループの練習の音もずいぶん大きくなってきて、自分たちのバイオリンの音がよく聞こえません。そこで、Aさんのグループは、担当の先生に断って、3人で、2階の合併室で練習をすることにしました。

音楽室から合併室に移動するとき、Bさんは、Aさんに、「3人の譜面台や楽譜などを、2階の合併室に持って行ってね」と、声をかけました。そして、Bさんは、「代わりに私が、Aさんのバイオリンを持ってあげる」と、言ったのです。

Aさんは、少し迷いましたが、その申し出の通りにしました。

Bさんは、またすぐに音楽室に戻るの、バイオリンをケースには入れず、右手に自分のバイオリンを、左手にAさんのバイオリンをもって、音楽室から出ようとしていました。

そのとき、3人分の弓と自分のバイオリンを持ったZさんは、「今日は、とても息がぴったり合っているな。よかった！」と、嬉しそうに独り言をつぶやいていました。Bさんは、その声を聞き、Zさんに同感といった顔をして、少し後ろを振り返りながら、廊下に出たのです。

と、そのとき、廊下左側から走ってきたCさんが、Bさんの左手とバイオリンに、ぶつかってしまいました。その勢いで、バイオリンはBさんの左手からはじけ飛んで、数メートル先の柱に激しくぶつかってしまいました。Aさんのバイオリンは壊れてしまいました。

さて、この中学校では、壊れたり盗まれたりすると困るので、あまりに高価な物は持ってきてはいけないことになっていました。

ところが、この壊れた、Aさんのバイオリンは、120万円で購入した物でした。

実は、Aさんは、練習用の安いバイオリンを持っていたのですが、コンサートには、良い方のバイオリンで演奏したいと願って、グループ練習の時から、担当の先生にも内緒で、120万円のバイオリンをもってきてしまったのです。

また、Aさんは、このバイオリンに保険をかけていませんでした。ですから、このバイオリンの修理には、60万円くらいかかるそうです。

また、Cさんは、アリーナでバレーボール部の練習に参加していたのですが、同じ部員の一人がケガをしたので、あわてて保健室に先生を呼びに行くところでした。

Aさんは、修理をしてもバイオリンは完全には元に戻らないので、同等のバイオリン(120万円)を弁償してもらいたいと考えており、Bさん及びCさんに対し、代金120万円を請求しました。

問 バイオリンの事例について、A、B、Cさんはそれぞれどのように相手に対して思っているでしょうか。あなたがA、B、Cだったとしたらと考えて、それぞれの心情を想像して書いてみましょう。

Aさんの 立場だとし たら	Bさんに対して          Cさんに対して
Bさんの 立場だとし たら	Aさんに対して          Cさんに対して
Cさんの 立場だとし たら	Aさんに対して          Bさんに対して